

出世魚

あけましておめでとうございます。西暦2000年、20世紀最後の年、世紀末年の始まりです。とはいっても、いつもと同じ様なお正月を迎えた方も多いのではないのでしょうか。そういう私も、たぶん……。

お正月というとお節料理。最近では、お正月だからといって、お節料理にこだわらない家庭も増えていますが、どうしてもこの料理がないとお正月を迎えた気がしないという一品がある方も多いのではないのでしょうか。私の場合、"ブリの照焼"がその一品になります。この時期のブリは寒ブリとも言い、脂がのっていて、刺身で食べてもおいしいのですが、照焼にすると適度に脂も落ちて食べやすく、またある程度日持ちもしてお節料理のような保存食にも向いています。

ところで、ブリは出世魚としても有名です。日本では昔、中国の風習を真似て、武士や学者などは成人して元服すると、幼名とは違った名を名乗っていました。これと同様に、魚も成長すると風味が変わり、呼び名が変わる魚がいます。これが出世魚です。ブリの場合、モジャコ→ワカナ→ツバス→ハマチ→メジロ→ブリと名前が変わります（魚の名前は地方により呼び名が変わるものが多く、ブリの幼名もこれ以外の呼び名が色々あります）。ハマチは養殖魚の代名詞として一世を風靡した時期もありますが、油臭いということで、逆にまずい養殖魚の代名詞になった時期もあります。しかし、ブリの幼魚ということをご存じ無い方も多いのではないのでしょうか。ちなみに、最近スーパーなどの魚売場でハマチという名前をあまり見かけないと思っていたら、養殖ブリという名前を見かけるようになりました。ただし、以前の養殖ハマチとこの養殖ブリが同じものかどうか私は知りませんが、結構おいしいものです。

出世魚にはブリ以外にも、スズキ、ボラなどがいます。スズキはフッコ→コッパ→セイゴ→フッコ（大小の意味がある）→スズキ→オオタロオと変わり、ボラはオボコ→イナッコ→スバシリ→イナ→ボラ→トドと変わります。"とどのつまり"とは、ボラが幼魚から成魚になるにつれ、色々な名で呼ばれますが、最後に"トド"と呼ばれることから、「結局のところ」という意味で使われます。また、オボコはウブコ（産子？）から転じたもので、生まれて間もない子の意味になりますが、おぼこ娘の"おぼこ"（世間を知らずずれていないことの意）にも通じるのかもしれませんが。

名前が変わると言えば、当研究所も平成13年4月から独立行政法人になる予定です。その前身から言えば、北海道庁土木試験室→北海道庁土木部試験所→北海道庁土木試験所→北海道土木試験所→北海道開発局土木試験所→北海道開発局開発土木研究所→独立行政法人北海道開発土木研究所（予定）と変遷します。果たして、当研究所が出世魚として"独立行政法人北海道開発土木研究所"という名称で"トドのつまり"となるのかどうか、どなたかご存じの方はいらっしゃいませんか。

(坪田 幸雄)

*

*

*

*

表紙右上記号 ISSN 0914-8159の説明

ISSNはInternational Standard Serial Number（国際標準逐次刊行物番号）の略で、逐次刊行物に付与される国際的なコード番号で、ISSD（国際逐次刊行物データシステム）という組織のもとで逐次刊行物の組織や検索に利用されます。

この番号は国立国会図書館ISSD日本センターから割り当てられたものです。